

## 米株高を受けて4日ぶり反発も、模様眺め続く

2009年10月6日(火)

第一生命経済研究所 経済調査部  
副主任エコノミスト 人見 小奈恵

TEL 03-5221-4523

e-mail: hitomis@dlri.dai-ichi-life.co.jp

### 米ISM非製造業の改善をきっかけに大幅反発

経済指標の改善や銀行大手による大手銀行株の投資判断引き上げなどを好感して、米株市場は5営業日ぶりに大幅反発しました。大手銀行株の投資判断を引き上げた理由として、「大手銀行は買収を通じて、地方銀行との収益力の格差が拡大しており、これに伴う増益見通しが株価には織り込まれていない」と指摘しています。

9月のISM非製造業景況指数は50.9と、1年ぶりにサービス業活動の拡大と縮小の境目を示す50を上回りました。市場予想(50.0)も上回り、株式市場ではこれを好感した買いが見られました。項目別では、新規受注は54.2と2007年10月以来の高水準をつけましたが、雇用指数は44.3と前月より改善したものの低水準にとどまりました。企業の景況感は回復しているものの、雇用環境の回復の遅れが示唆されています。また、サービス業は米GDPの8割程度を占めますが、各国の景気対策を背景とした世界貿易量の増加やドル安を受けて回復してきた製造業と比べて、サービス業の回復の遅れを懸念する声も出ています。

### 米経済指標の改善を受けて反発も、円高が重しに

米株上昇を受けて、国内株式相場は反発して寄り付きました。金融関連株の買戻しに加えて、輸送用機器などの景気敏感株が堅調でした。ただし、小売などの内需関連は軟調で、寄り付き後は下落基調となりました。その後、89円台後半で推移していたドル円相場が89円前半へ急速に下落したことから、日経平均株価は9,700円を割り込みました。これを受けて、先物にまとまった売りが入り、上げ幅を急速に縮め、一時前日終値(9,674円)を下回りました。円高ドル安が進んだのは、「アラブ諸国が、原油取引での米ドル建て利用中止に向けて協議中」との英紙報道がきっかけでした。日経平均株価は前日終値を挟んで、値動きの乏しい展開でしたが、大引けにかけては先物の買い戻しも入り、日経平均株価は小幅ながら前日比プラスで引けて、4日ぶりの反発となりました。業種別騰落率上位には、不動産、証券、銀行、輸送用機器など、ここ1ヶ月の下落局面で下落率の大きかった業種が並びました。

オーストラリア準備銀行は、政策金利を3.00%から3.25%へ引き上げました。これを受けて、豪ドルは大幅高となりました。市場では利上げはある程度織り込まれていたものの、実施時期については来年以降との見方が多かったことから、サプライズとなりました。豪ドルは3月以降、対ドルで40%程度、対円でも30%近く上昇していますが、景況感の改善や住宅需要の強さなど他国と比べて景気回復ペースが早いことや、利上げ観測を背景に、引き続き堅調に推移するとの見方が出ています。昨年の金融危機以降、先進国の中で最初に利上げに踏み切ったのは8月のイスラエルですが、OECD加盟国の中ではオーストラリアが初めてです。今後は、他の先進国にも金利正常化に向けた動きが徐々に広がってくるものと思われます。

以上